

愛知県における マイナー作物の農薬登録推進

愛知県農林水産部農業経営課
西脇謙二

1

愛知県におけるマイナー作物の位置づけ

2

登録試験数の推移

3

関係機関との役割分担

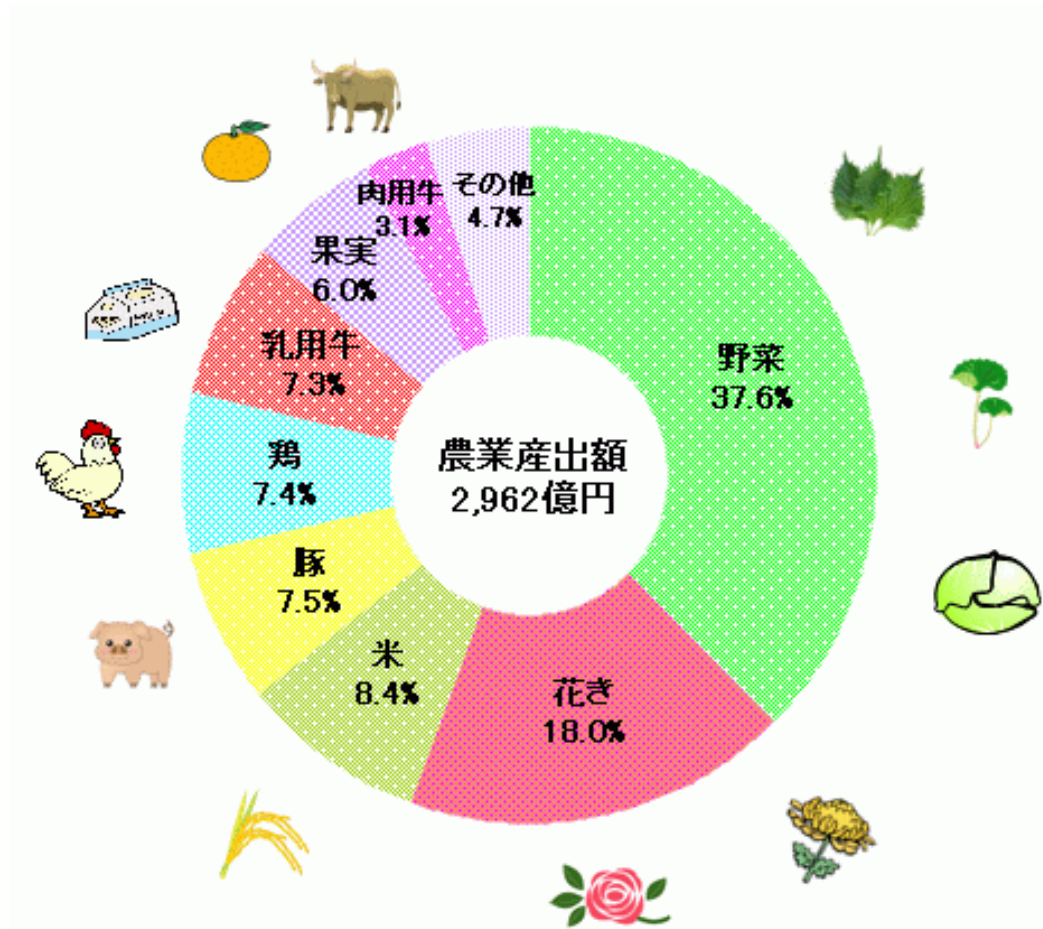
4

農薬登録試験における留意点

5

今後の取り組み方向

愛知県の主要なマイナー作物は産出額も多い



出典:平成22年 生産農業所得統計

順位	作物名	産出額 (億円)	構成比 (%)
1	米	250	8.4
2	キャベツ	230	7.8
3	豚	221	7.5
4	きく	209	7.1
5	生乳	201	6.8
6	鶏卵	187	6.3
7	トマト	164	5.5
8	肉用牛	91	3.1
9	しそ	91	3.1
10	いちご	80	2.7
31	いちじく	20	0.7
40	ふき	13	0.4
41	みつば	13	0.4

1

愛知県におけるマイナー作物の位置づけ

2

登録試験数の推移

3

関係機関との役割分担

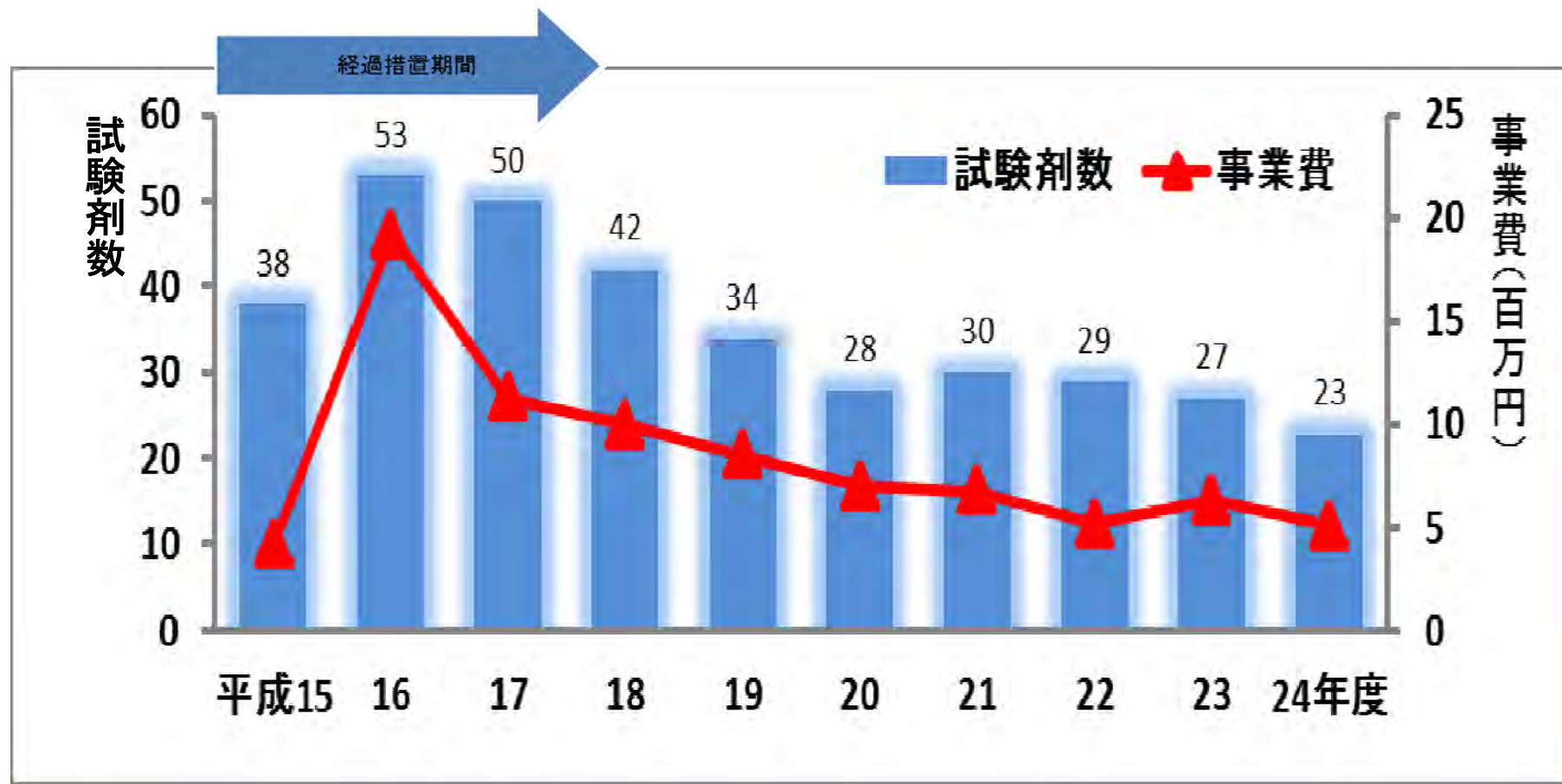
4

農薬登録試験における留意点

5

今後の取り組み方向

平成15年以降の試験数は年20剤以上



試験作物はつまもの、いちじく、ふき等が多い (H15～24年度)

	作物名	試験剤数		作物名	試験剤数
つまもの	しそ	41	その他の作物	いちじく	29
	ハーブ類(6作物)	34		ふき	19
	しそ(花穂)	20		さやえんどう	18
	食用ぎく	22		みつば	9
	きく(葉)	17		その他(16作物)	44
	食用ミニバラ	12		小計(20作物)	119
	食用花類(6作物)	34			
	さんしょう(葉)	12			
	その他つまもの(13作物)	43			
	小計(31作物)	235			
				合計(51作物)	354

試験の取り組み風景



試験農薬の散布
さんしょう(葉)



分析試料調製
しそ(花穂)



分析試料調製
食用金魚草



薬効試験
食用パンジー

グループ化による農薬登録に必要な試験成績

作物群	薬効試験	限界薬量薬害試験	作物残留試験
しそ科葉菜類	しそで2例以上、及び当該作物群に含まれる2種類以上の作物で4例以上。合計6例以上。	薬効・薬害試験に供試した3種類以上の作物で、合計6例以上。	しそ、セージ、はっかの内1種類の作物及び当該作物群に含まれる他の1種類の作物
せり科葉菜類	セルリーで2例以上、及び当該作物群に含まれる2種類以上の作物で4例以上。合計6例以上。	薬効・薬害試験に供試した3種類以上の作物で、合計6例以上	きんさい、コリアンダー(葉)、みつばの内1種類の作物及び当該作物群に含まれる他の1種類の作物

「農薬の登録申請に係る試験成績について」の運用について
(平成13年10月10日付け13生産第3986号農林水産省生産局生産資材課長通知)

しそ科葉菜類5農薬、 せり科葉菜類2農薬が登録拡大

◎はグループ登録、●は登録があるがグループ登録から除外、○は作物登録

(平成24年8月27日現在)

作物群	作物名	イミダクロ プリド水和 剤	クレソキシ ムメチル水 和剤	ジノテフラ ン水溶剤	スピノサド 水和剤	フルフェノク スロン乳剤	ミルベメク チン乳剤
しそ科 葉菜類	えごま(葉)		◎	◎	◎	◎	●除外
	オレガノ		◎	◎	◎	◎	◎
	しそ	○	●除外	◎	◎	◎	●除外
	セージ		◎	◎	◎	◎	◎
	タイム		◎	◎	◎	◎	◎
	バジル		◎	●除外	◎	●除外	◎
	はっか		◎	◎	◎	◎	◎
	レモンバーム		◎	◎	◎	◎	◎
	ローズマリー		◎	◎	◎	◎	◎
せり科 葉菜類	きんさい	◎				◎	
	コリアンダー(葉)	●除外				◎	○
	せり			○	○	◎	
	セルリー	●除外	○	○	○	●除外	○
	チャービル	◎				◎	
	ディル(葉)	◎	○			◎	
	にんじん(葉)	◎				◎	
	パセリ	●除外	○		○	●除外	○
	フェンネル(葉)	◎				◎	
	みつば				○	●除外	○

初期付着量試験による 食用花類の登録拡大は3剤

(平成24年8月27日現在)

作物名	クロルフェナピル 水和剤	スピノサド 水和剤	ミルベメクチン 乳剤
食用プリムラ	●登録	◎	◎
食用なでしこ	◎	●登録	●登録
食用金魚草	◎	●登録	●登録
食用トレニア	◎	◎	◎
食用カーネーション		◎	◎
食用パンジー	◎	◎	◎
食用エキザカム	◎	◎	◎
食用せんにちこう	◎	◎	◎

注:「◎」は残留試験結果参照による登録拡大、「●登録」は作物残留試験実施による登録拡大

注: 初期付着量試験の作物残留性試験成績を参照する作物は以下のとおり

クロルフェナピル水和剤(食用プリムラ)

スピノサド水和剤(食用なでしこ)

ミルベメクチン乳剤(食用なでしこ)

1

愛知県におけるマイナー作物の位置づけ

2

登録試験数の推移

3

関係機関との役割分担

4

農薬登録試験における留意点

5

今後の取り組み方向

マイナー作物農薬登録拡大の推進体制

愛知県マイナー作物等 農薬登録推進協議会 (総合調整機能)

県庁(農業経営課主幹)
農総試(病虫害防除室長)

愛知経済連
(営農総合室長)

農薬卸商業協同組合
(事務局長)

県植物防疫協会
(事務局長)

愛知県マイナー作物等 農薬登録推進協議会 調整会議 (試験計画の策定)

県庁(農業経営課)
農総試(病虫害防除室)
農総試(環境安全研究室)

愛知経済連(営農総合室)
愛知経済連(生産資材部)

農薬卸商業協同組合

※必要に応じ
愛知経済連(園芸部)、
農業改良普及課等を参集

農薬登録試験の 実働部隊 (試験の遂行)

農総試(病虫害防除室)
農総試(環境安全研究室)
農業改良普及課

JA等

農薬登録拡大に係る試験農薬の選定工程

登録要望 農薬の照会

- マイナー協議会で次年度試験方針を決定(7月)
- 登録要望を照会(県庁→各機関)
- 登録要望の回答(農業改良普及課、愛知経済連→県庁)

試験候補 農薬の検討

- 県庁、農総試で協議後、農薬メーカーの意向打診(9月～)
- マイナー協議会調整会議で検討
(約100剤→試験剤数+α)

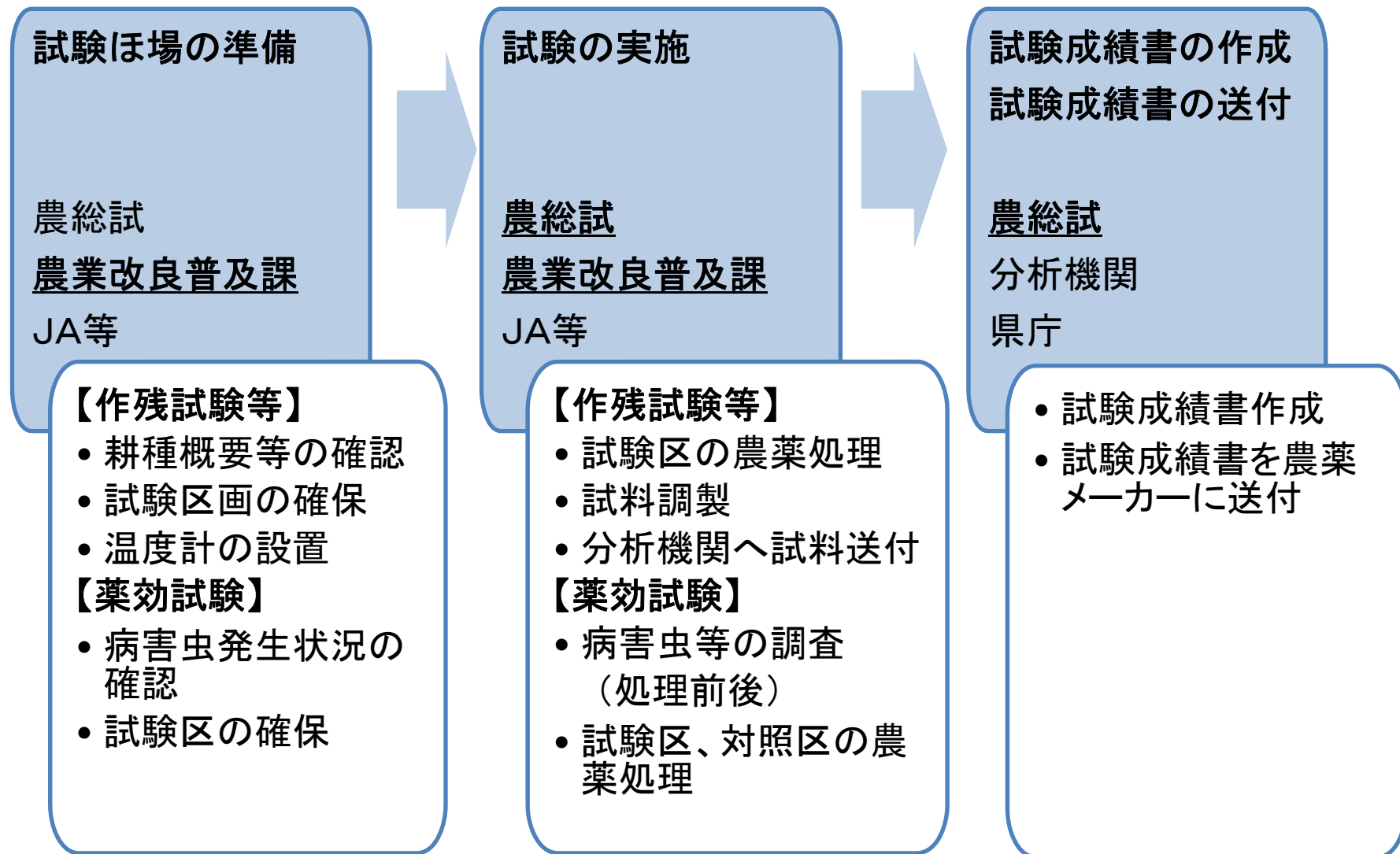
試験農薬 の決定

- 試験設計を農薬メーカーと協議(9月～)
- マイナー中央協議会へ報告
- 他府県等との連携打診
- マイナー協議会調整会議で決定(2月)

試験の実施

- 農総試が試験実施(4～3月)
(農業改良普及課、JA等が協力)
- マイナー協議会で報告

農業改良普及課やJA等の試験協力が不可欠



作残試験に要する費用と負担区分

ほ場借り上げ料(生産者及び公益財団法人愛知県農業振興基金)

- 処理区及び無処理区 (生産者負担の一部を基金事業で助成)

試料調製費用(県及びマイナー協議会等)

【県負担】

- 試験農薬代
- 試料調製資材(ビニル袋、手袋等)

【マイナー協議会等の負担】

- 農薬飛散防止用遮蔽資材(ビニル)
- 試料梱包資材(段ボール)
- 分析試料送料

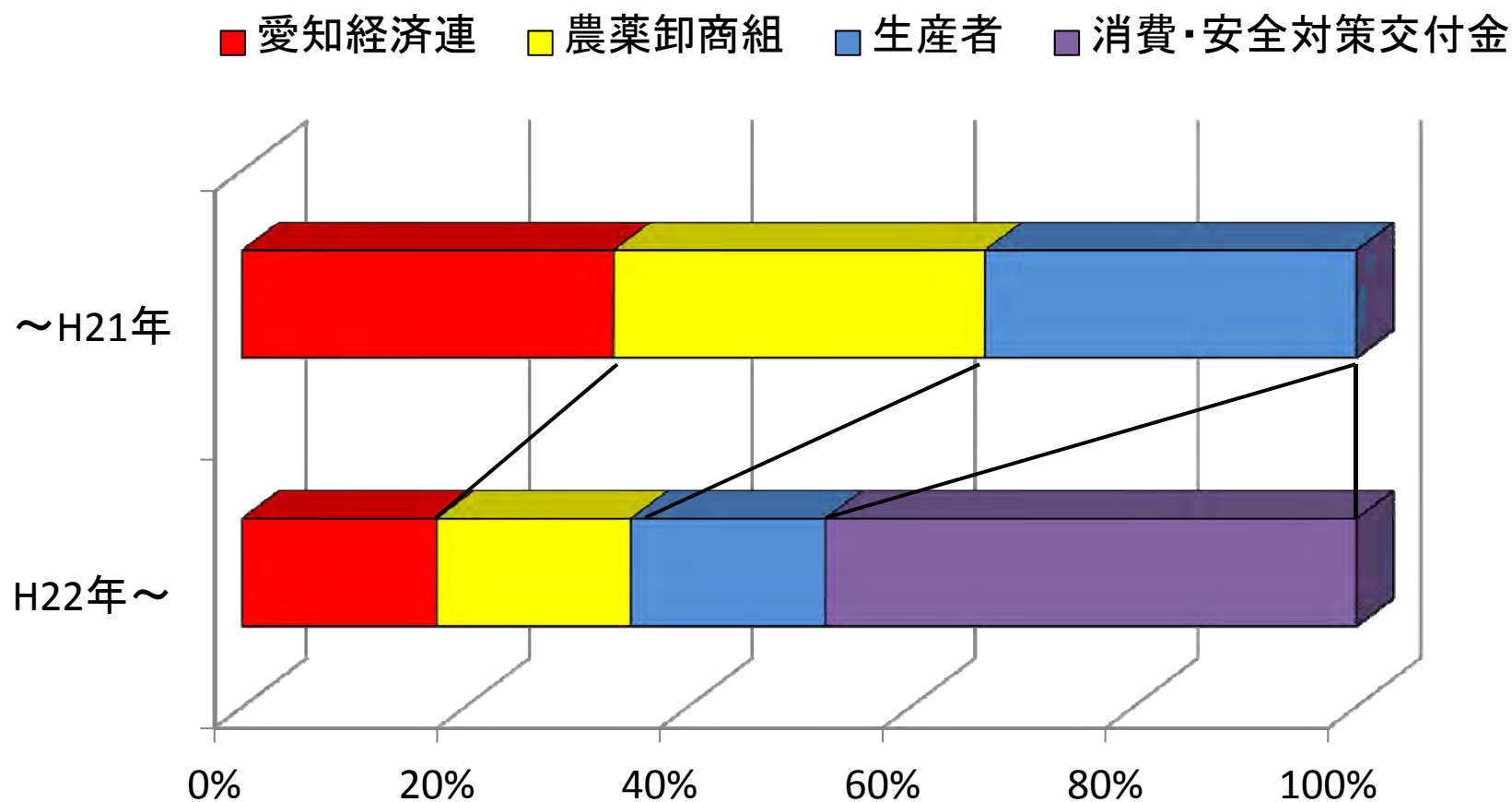
分析費用(県、またはマイナー協議会(外注分析))

- 分析費用 登録試験1剤当たり8検体(2事例×4試料)

その他の費用(県)

- 需用費(公用車ガソリン代、成績書作成コピー代)
- 役務費(電話代、郵便切手代)、旅費(出張旅費)など

消費・安全対策交付金の活用により 関係団体の残留分析費用の負担を軽減



1

愛知県におけるマイナー作物の位置づけ

2

登録試験数の推移

3

関係機関との役割分担

4

農薬登録試験における留意点

5

今後の取り組み方向

農薬登録拡大試験における技術的な留意点

試験全般

【試験設計】

- 実用的な使用方法か（濃度、収穫前日数、使用回数）
- 水和剤、粒剤、くん煙剤等の体系防除を検討したか
- 農薬登録できる残留基準が確保できたか

【試験成績】

- 事業期間内に試験が完了したか
- 成績書の記載は正確か
- 登録申請できる試験成績が得られたか

農薬登録拡大試験における技術的な留意点

作物残留試験

【試験設計】

- 所有機器で分析できるか（色素等妨害物質の影響はないか）
- 外注分析費用は予算内か
- 分析対象に代謝物が含まれるか

【試験段階】

- 他試験区へのドリフト防止対策は万全か
- 試料は均一に採取されたか
- 試料は十分量が採取できたか（試験面積、病害虫の発生等）

薬効試験

- 防除効果が判定できる試験条件か（病害虫・天敵の発生等）

農薬登録に係る行政的な課題

現状

- 農薬登録拡大試験は、年間20剤以上を実施
- 県の事業費は、消費・安全対策交付金や委託事業の活用
- 関係団体等は、現地試験の運営協力や費用負担により実施

課題

- 生産者団体等からの農薬登録要望が継続
- 県の予算カットにより、事業規模の維持が困難
- マイナー作物(葉菜類)は農薬飛散による食品衛生法違反(一律基準)のリスクが高い

1

愛知県におけるマイナー作物の位置づけ

2

登録試験数の推移

3

関係機関との役割分担

4

農薬登録試験における留意点

5

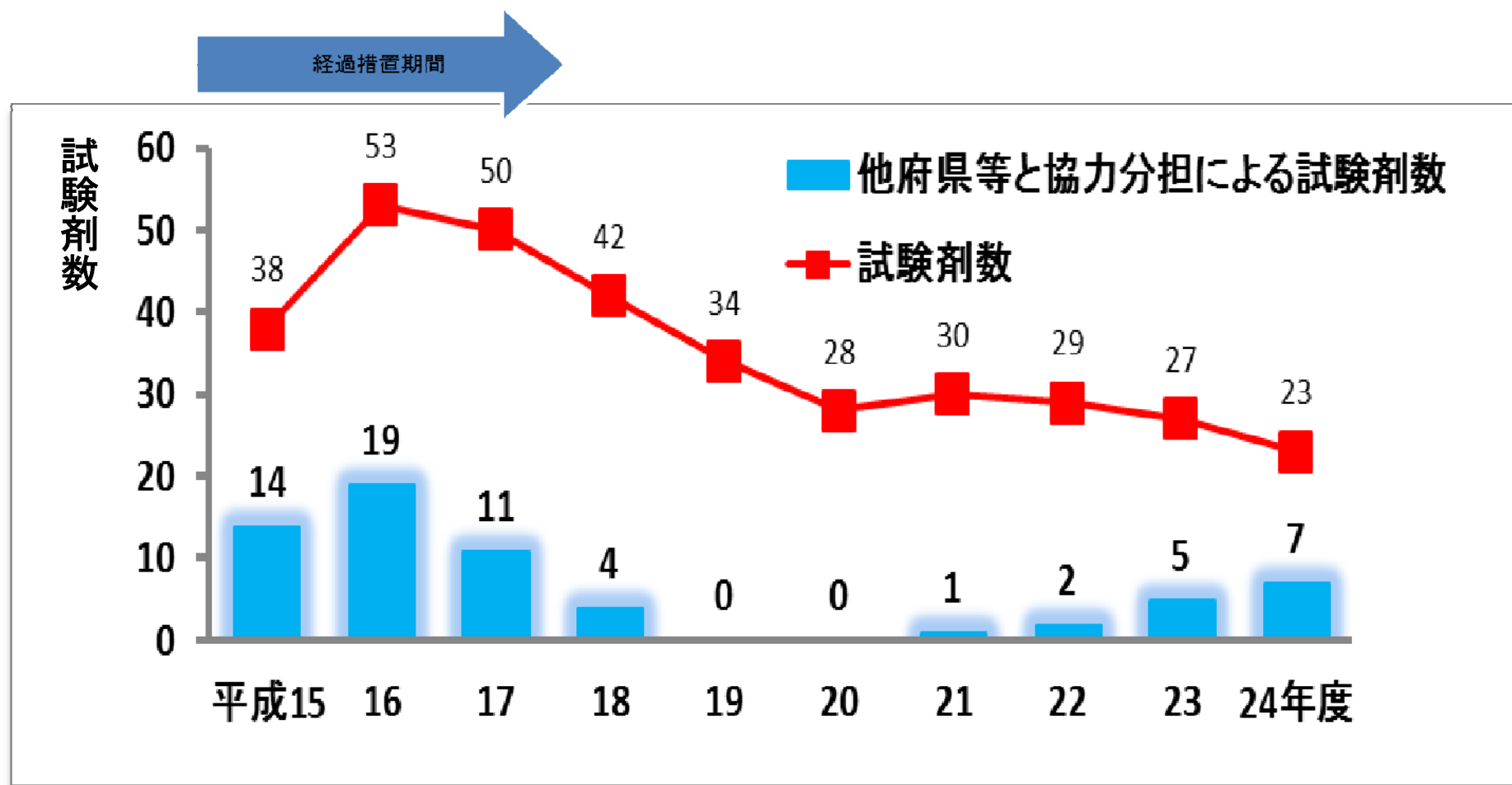
今後の取り組み方向

マイナー作物の摂取量は少ない

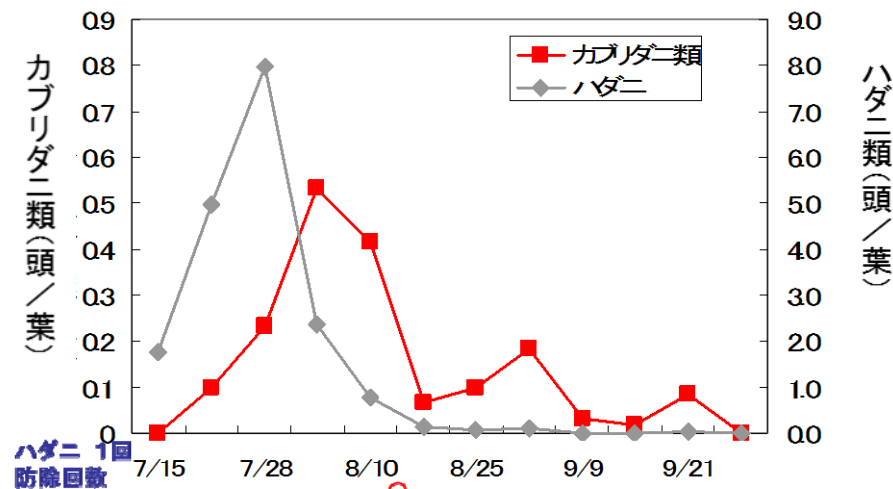
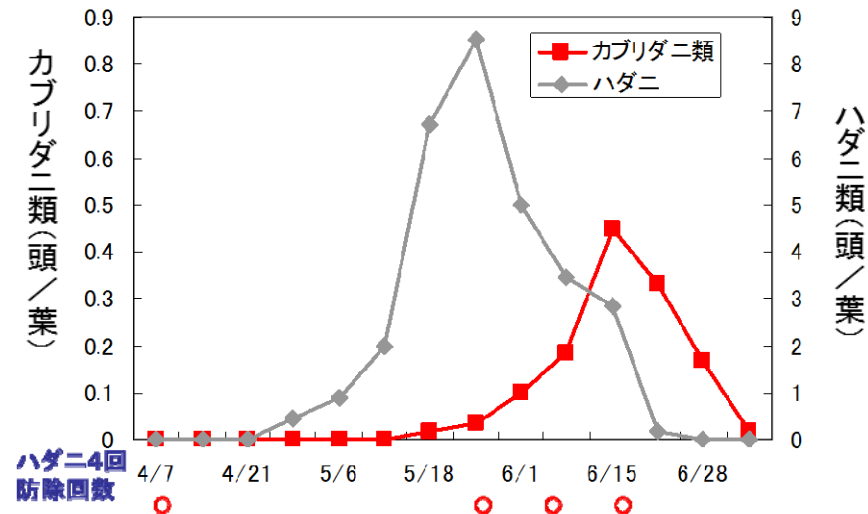
→ 残留基準の設定に御高配をお願いしたい

食品分類(摂取量)	作物名	食品分類(摂取量)	作物名
その他のハーブ (0.1g/day)	しそ	その他のきく科野菜 (0.4g/day)	食用ぎく
	しそ(花穂)		きく(葉)
	バジル		すいぜんじな
	はっか	その他の野菜 (12.6g/day)	えごま(葉)
	コリアンダー(葉)		食用カーネーション
	チャービル		食用金魚草
	ディル(葉)		食用トレニア
	タラゴン		食用なでしこ
	さんしょう(葉)		食用パンジー
	食用ミニバラ		食用プリムラ
	やなぎたで		食用かえで(葉)
その他のうり科野菜 (0.5g/day)	きゅうり(花)		かき(葉)
	きゅうり(葉)		なんてん(葉)
その他のなす科野菜 (0.2g/day)	しよくようほおずき		つるな
クレソン (0.1g/day)	クレソン		ふだんそう
			ゆきのした

他の都道府県等との協力分担を望んでいます



天敵を活用したハダニ類の防除効果を実証 今後、防虫ネットや粘着板を組み合わせた試験に取り組む



(愛知県東三河農林水産事務所 金子原図、
試験場所:農事組合法人三河温室園芸組合)
食用ぎく、ミヤコカブリダニの実証試験

今後の取り組み方向のまとめ

